

吉川 暉 先生

志

大 分 県 医 師 会



吉川 暉 元大分県医師会会長 顕彰記念誌によせて

元中津市医師会長 川 篤 眞 人

吉川 暉 元日医副会長で元大分県医師会会長は平成24年5月20日に84歳で亡くなられた事に対して改めて心から哀悼の意を表したいと思います。この度は先生の偉大なるご業績を顕彰して胸像が作製されるという事で医師会理事としてまた中津市医師会長の時にご薫陶を賜った人間として筆をとりました。

先生が平成4年に大分県医師会会長になられた頃は中津市医師会も従来からあった准看護学校を廃止し、私が命名したファビオラ（紀元309年、ローマに世界で初めて看護中心の病院を設立した人物名）看護学校を設立するための準備中の時でした。当時の中津市医師会会長は向笠寛先生で私達も理事としてこの学校設立のために大変な苦勞をしていました。

- ① 中津市医師会の土地を売却する事
- ② 建設用地を入手する事
- ③ 准看護学校+高等看護学校を併設する事
- ④ 健診センターも併設する事

という総工費14億円を越す大きな難事業でした。また県の行政当局の許可、並びに厚生労働省の許可を取得しなければならず、そのために中津市医師会の向笠会長や久持副会長（後の医師会長）、担当理事の進先生はじめ多くの理事が日夜、東奔西走する大変な3年間でした。

当時、このような学校設立には行政当局は大変厳しく、まず予算がないという事で会員全員で借金をし、更に県からの補助金、国からの補助金そして県医師会からの補助金など様々な方面からの支援を得るために向笠会長は県医師会の吉川会長にあらゆる面で相談をさせて頂きました。

設立は難航を極め、学生募集を始めたけれども着工が出来ない状況に陥るなど大変な事態になりましたが、吉川会長のご支援を得て行政当局に声をかけて頂き、漸くギリギリのところ着工が出来、平成7年4月、ファビオラ看護学校が開校されました。准看護学校と高等看護学校、健診センターを併設する中津市医師会の建物がここに当初の予定通り完成しました。

これはひとえに吉川会長のご支援がなければとても出来なかった計画であり、また向笠会長を中心とした我々の「何としてでも設立したい」という強い情熱を汲み取って頂いた吉川会長の思いやりのあるお気持ちが県医師会、行政当局を動かして頂き、我々に支援をして頂いた

事に心から感謝を致しています。

お陰さまでファビオラ看護学校は創設以来、准看護学校は認定試験100%の合格率を誇り、高等看護学校は常に90%を超す国家試験の合格率を誇る、国内でもトップレベルの学校へと成長し、卒業生は日夜、近隣の病院や診療所などで活躍しています。

このように我々が初志貫徹出来たのも吉川会長や県医師会のご支援があった賜物と改めて感謝の思いで報告させていただきます。